

教育現場向け / 概要資料

学校向け 匿名エンゲージメント・サーベイ

生徒・教職員の「本音」を、誰が答えたか特定せずに可視化する。
企業向けエンゲージメントサーベイの設計を、そのまま教育現場へ。

— できること・匿名性の仕組み・進め方のご説明 —

For **KotoVision** 山岸様

企業向けに開発したエンゲージメントサーベイ（離職リスク・組織課題の可視化エンジン）を、学校現場に翻案します。

● ねらい

アンケートを「点数を測るだけ」で終わらず、**どこに課題があり、次に何をすべきか**までを可視化します。生徒・教職員が安心して本音を出せる＝心理的安全性を軸に、学校の状態を健康診断のように把握できます。

● 測る項目（学校向けの例）

所属感・前向きさ

学校が好き／通い続けたい／意欲を持っている

心理的安全性

安心して意見が言える／自分らしくいられる／違いが尊重される

大人との関係

先生に相談できる／話を聞いてもらえる／信頼できる

公平性・居場所

公平に扱われている／自分の居場所がある

多様性・少数者の安心

多様な在り方が尊重される（LGBTQ等を含む）

自由記述（任意）

定性的な声を拾う。表示は要約・匿名化（後述）

● アウトプット（結果として返せるもの）

- 項目ごとのスコア可視化（学年・クラス単位など／後述の匿名ルール内で）
- 「どこが最大のボトルネックか」を自動特定するギャップ分析
- 結果を踏まえた次の打ち手の示唆（振り返り・研修・環境改善など）

「すぐに・無理なく始められる」理由

新しくシステムを作る必要はありません。既にある仕組みを学校向けに調整するだけで運用できます。

● 仕組みは既に完成している

設問設計・スコアリング・ギャップ分析といった「診断エンジン」は企業向けで既に運用中。学校向けに言葉を調整すれば転用できます。

● 専用システム開発が不要

配信・集計はフォームツール（Lark フォーム等）で完結。URLを配って回答してもらうだけで、結果は自動で集計されます。

● 学校端末から回答できる

GIGA端末などのブラウザからアクセス可能。アプリのインストールや特別な環境構築は不要です。

● スモールスタートできる

まず1クラス・1学年からの試験導入が可能。負担を最小化して始め、手応えを見て広げられます。

つまり

「設問を学校向けに整える → フォームを用意 → URLを配る → 結果を返す」という最小構成で、短期間で第一歩を踏み出せます。

ご相談の核心。子どもが本音を出せるかは、ここの信頼にかかっています。

結論

「誰が・何と答えたか」を、**運営側にも・学校の先生にも特定できない**設計にできます。鍵は「個人情報を“最初から取得しない”」こと。下の4つを組み合わせで担保します。

1 匿名回答にする（氏名・アカウントを取得しない）

ログインを求めず、回答者のアカウント情報も収集しない設定で配信します。

2 個人が割れる項目を聞かない

氏名・出席番号・部活など、組み合わせると本人が特定され得る情報は最初から取得しません。

3 少人数は集計で隠す（最小単位ルール）

回答数が一定数（例：15人）未満のグループ・クロス集計は表示しません。少人数のクラスでも「この回答は誰だ」と割れないようにします。

4 自由記述はAIで要約・固有名詞を除去

「担任の〇〇先生が…」のような特定につながる記述は、要約・マスキングしてから表示。生の記述は学校には渡しません。

正直にお伝えする1点（学校端末の特性）

学校のネットワーク／端末管理（MDM）の仕組み上、「誰が・いつ・そのURLを開いたか」のアクセス記録は学校側に残り得ます。ただし、ここから分かるのは**“アクセスした事実”だけで、回答の中身は分かりません**（回答内容はフォーム側にしかありません）。この線引きを最初にきちんと説明することが、かえって信頼につながります。

04 進め方（たたき台）

まずは小さく試して、手応えを確かめてから広げるイメージです。

STEP 1 ヒアリング

対象（生徒／教職員）・目的・規模・聞きたいことをすり合わせます。

STEP 2 設問カスタマイズ

既存の設問を学校向けに調整。匿名性ルール（最小単位など）もここで設計します。

STEP 3 試験導入

1クラス／1学年など小さく実施。フォームURLを配って回答してもらいます。

STEP 4 結果レポート+振り返り

スコア・ボトルネック・打ち手の示唆をまとめて共有し、一緒に振り返ります。

STEP 5 本格導入・定点観測

範囲を広げ、定期実施で変化を追います（個人は追跡せず、集団の断面で比較）。

まずは小さく、一度やってみるところから。

「どの学年で・何を知りたいか」が決まれば、設問の調整からすぐ着手できます。試験導入の規模感・進め方など、まずは気軽にご相談ください。

株式会社LGBTQ Ordinary 代表 佐古田 陽登